

1 彼はゆつくりと

彼はゆつくりと歩いて行くのだ
彼のしてきた事がらをふりかへつてみよう
町がある 道がある 門が小さく並んで見える
家がある 彼がしのび入った家がある

組み立てられた機構の中で
表札の字だけで結ばれてゐる男と女
彼のやうな矢はつぎつぎに女につきささり
あとには傷と記憶が残った

目の前の枝をすかして白い山
陰毛のやうな遠い木立
彼は人に見られない場所にあるのだ

道の側には犬の足あと そのあひだに
その前に逃げて行つたけどものの
大きい えぐられた足あと

2 一本の木を

一本の木を泥でつくつてゐる男がゐた
一本の木を泥でつくつてゐる女がゐた
男には髪の毛がいつぱいあつて風に吹かれてゐた
女には髪の毛がいつぱいあつて風に吹かれてゐた

男は言つた
このやうに高く太くつくつてゐるのですよ
女は言つた
このやうに高く太くつくつてゐるのですよ

だんだん風が強く吹くやうになつて
男は女をわすれて木を守つた
女は男をわすれて木を守つた

だんだん風が強く吹くやうになつて
男の木は折れた
女の木は折れた

3 男ばかりで

男ばかりで輪になつて あみがさをかぶります
歌につれて ぐるぐる 廻ります
腰の重みをやはらかに見せて
同じ調子がくりかへしてつづきます

手のひらが時々光ります
つゆの下りるまで
同じ調子がくりかへしてつづきます
ここでは男だけなのです男ばかりです

草も生えない 岩の上では
むしろをかぶつて男が男の上になつて
やさしい言葉をくりかへしてゐるのだ

酒をのませようとして あみがさをとると
くちびるの赤い男はほほゑみ
月の光が荒れた肌を照らしてゐるのだ